

憲教類典

三十八
道



庫文閣内		
八	三	和
〇	三	
兩	三	

内閣文庫	
番號	和 33319
冊數	122(93)
函號	180 74

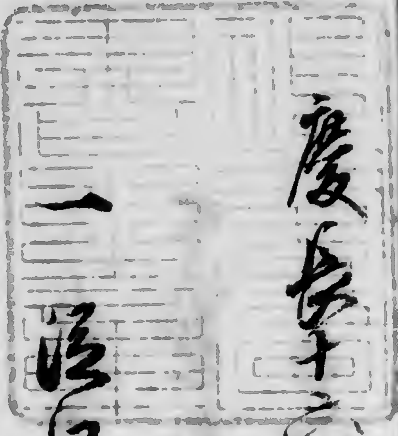
共百廿二

道中

四六

慶長十二年庚申七月

定



一 江戸川口より進上り、船隻の荷役一切停止

由、賞目有る者、残二十六天、同夜、極務

に、後文より、

附人、是、候、也、



一 船隻の荷役、一切停止、

一 船隻の荷役、一切停止、

説明ターゲット

表紙の裏は糊付けの為、
撮影不可能

右ノ所ノ由ニ通シテ先ノ如ク定
ルニ可ク日書シテ其ノ由ニ
テリテ其ノ子孫ヲ後ニ知セ
ル
一 御事ノ所ノ由ニテ其ノ由ニ
テ対テ其ノ由ニテ 美難
於有ニテ其ノ由ニテ其ノ由ニ
一 御事ノ由ニテ其ノ由ニ
其ノ由ニテ其ノ由ニテ其ノ由ニ

一 御事ノ由ニテ其ノ由ニ

右ノ條ノ如ク相定シテ其ノ由ニ
テ其ノ由ニテ其ノ由ニテ其ノ由ニ

其ノ由ニテ其ノ由ニ

其ノ由ニテ其ノ由ニ

其ノ由ニテ其ノ由ニ

元和三丁巳年十一月廿日

東流及川主ノ軍ニ連書シテ其ノ由ニ

謝人...
 一 此是...
 一 親會...
 一 宛下...
 一 復也...
 一 謝...
 一 乃...

一 此...
 一 在...
 一 謝...

右條...
 寛永二年八月廿七日奉行

寛永八年未年七月
 出年...
 出年八月...

三後日籍舎きくし一并之所
年寄子科
と取らるる百文先
一也高多結縁
一但結縁おかし
在る所
一性還る事制れし
是れは

對し
復

右可相与此方者也
假執送

寛永十七年三月朔日 奉行

寛永十九年二月十二日

定

一人賣買一因停止
多しは

舎式二為と科

附二入人同罪

一 用女地座年季格々年を湯毎

格々年二は二為曲る事

一 用女一は二為曲る事

一 用女一は二為曲る事

一 用女一は二為曲る事

一 用女一は二為曲る事

一 用女一は二為曲る事

一 用女一は二為曲る事

一 用女一は二為曲る事

賞月

一 用女一は二為曲る事

一 用女一は二為曲る事

一 用女一は二為曲る事

一 用女一は二為曲る事

一 用女一は二為曲る事

附人

一人と云く 御筆を傳る次と云

るは云ひしにせん 讀し書

得し外一足一人と云はし可

し可

一宿賃ししりまき代に人十名

又よ十八控又宛きり

一人と云く 賃宿賃し下以定し外由

淺者河にむ三十日新倉た

趣し并し所し年一奇てなる科

而費より一もれを家一乃り王百文

一と云

一 此傳るは賃し者也と云はれ

一切し但し賃しられ初し入時

に所より存し取しやしは

送し書し類と云凡の時と云

一 性還し奉判れし面をお肯澤

盡し後し概毎のしは性還し

之の不對——之の族非分——
小杉の——為曲る事——
右可お尋ね者也仍執達文件

寛永十九年二月十日 奉行

慶安四年八月

一 沙信子 即系平丸初之権前
祖兄の——人馬之信子孫一切

一 道中宿次之白形田在中判取外

一 系取分と 板倉園坊也

一 大坂分と 其所は河津宿也

一 駿河分と 其所は河津宿也

右之外何事も余之宿次以

子孫一切其色別由流江守上之

宿之問在所上之宿次

慶安四年八月

月曆元乙未年八月二日

一 傳馬継高札

定

一 此傳馬継高札は、
 一 江戸より品川迄、
 一 舟に荷物を令寄せ、
 一 舟に拾文同、
 一 舟に拾文同、
 一 舟に拾文同、

一 舟に拾文同

一 舟に拾文同、
 一 舟に拾文同、
 一 舟に拾文同、
 一 舟に拾文同、

一 舟に拾文同

一 舟に拾文同

一 舟に拾文同

一 舟に拾文同

色きりし一魚を少許あづかる哉
夜しりし一魚を少許あづかる哉
買入りし一魚を少許あづかる哉
買入りし一魚を少許あづかる哉
買入りし一魚を少許あづかる哉
買入りし一魚を少許あづかる哉
買入りし一魚を少許あづかる哉
買入りし一魚を少許あづかる哉
買入りし一魚を少許あづかる哉
買入りし一魚を少許あづかる哉

勿論お物より多しと書買し
あつたはうりぬしと書買し
店を問をうりしと書買し
ものえ
戌十月
奉行

百治三 庚子年十月廿二日
條々
一 今度洪水より日本上は高水ありし事

乃中一語優後決所定之亦云云云云
傍明一鹿ハ亦人傍ト當年ト云々
近一云云云

一 佳選之輩決り決人ニ追羊甚多
宿令困寃之間縦祇為所持大名家
中大一目之決りサも此決人ニ追後人ト
下る之輩外人ト云々持てハ云々
端先之輩ト云々可云云云

附人ト云々持る之ト云々

一 決り美也此決人ハ口穿聲上
人ト云々所々年身之決り申る但
沙様也此ト云々合ハ云々
附人ト云々持る之ト云々

一 意也一様ト決人ト云々山云々ハ人
ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々

一 長櫃一様ト決人ト云々ト云々ト云々
ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々

是云人... 恒... 世... 人... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

右... 可... 一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一... 奉行

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一 今夜は誰れもさ着てさうさうさうさうさうさうさう

一人言堂夜も子風高しと津も清し
向〜一と云ふなり

一宿子也傳る西條北し積り中光徳大若
平人へ十日子也後中光徳也〜下り
旨先年一社

作舟以今其也〜十山乃性色〜高
上〜山〜道〜山〜外〜
月君〜〜山人〜山人〜山人
女山人〜右山人

一高物三人〜僕を名〜

一山高物八山人〜僕也

一歩行病山人〜費用〜物送〜

〜

一昔物拾費用八山人〜後費用〜山人

三拾費用八山人〜山人〜重荷物

八物送仕方也

一而費用送六山人〜鹿日高子送費用〜

〜山人〜山人〜山人

三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部

一人 三拾三又子信口拾三又右相部
一人 三拾三又子信口拾三又右相部
一人 三拾三又子信口拾三又右相部
一人 三拾三又子信口拾三又右相部
一人 三拾三又子信口拾三又右相部

一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部

一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部

一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部
一 三拾三又子信口拾三又右相部

ふりし、行つた、ハ、為曲事、了、了、

右條、可、お、お、此、分、者、也、仍、不、知、解、

寛文七年十二月廿日 奉、行、

寛文六丙午年八月二日

凶年、分、馬、次、條、時、札、

去年、不、依、水、舟、之、換、毛、之、化、在、一、家、

大、是、之、直、た、り、の、ゆ、に、宿、一、夜、困、究、る、方、

何、方、と、此、後、後、を、新、子、舟、て、何、捨、何、後、

何、方、の、此、後、後、何、捨、何、又、家、の、中、に、何、ハ、

人、し、し、し、同、和、無、事、者、の、子、舟、ハ、何、捨、何、又、人、

是、後、ハ、と、人、と、何、捨、何、又、可、知、く、

之、の、也、

寛文六年八月二日

寛文八戊申年七月

一、凶年、分、馬、次、條、時、札、

凶年、分、馬、次、條、時、札、

延寶二年二月

延寶二年五月

傳馬官相傳錢之覺

東海道

赤川 川崎 神奈川 保土ヶ谷

戸塚 若沢 馬入舟渡 大磯

小田原 箱根 三嶋 沼津

系 吉原 蒲原 富士川舟渡

由井 真津 江尻 駿府

丸子 安倍城 岡部 藤枝

嶋田 金谷 大井城 新坂

鯉川 袋井 見付 同前天龍山城

浜松 舞坂 新居 同前今切山城

白濱 賀二川 吉田 伊豆

赤坂 藤川 岡部 池鯉鮒

沼海 熱田 同所舟渡 桑名

桑名舟渡 四ヶ市 石茶師 庄野

龜山 関 板之下 土山
水口 石都 草津 大津
伏見 橋本 淀 守口
牧方

合三拾二箇所

内油井所三ヶ所 貫文舟渡三ヶ所 日所
橋本多口二ヶ所 中野三ヶ所 四ヶ所 貫文

川越那方貫文苑

五拾二ヶ所 七ヶ所 十ヶ所 貫文苑

右錢言

合二万千四百貫文 東海道路

中山道

下板橋 蕨 浦和 上尾
大宮 桶川 鴻巣 熊谷
深谷 本庄 新所 金谷野
高所 板瓦 安中 板井田
坂本 軽井沢 皆野 止分

小田井 岩村田 滝谷田 八幡

望月 芦田 長窪 和田

下宿宿 滝鹿 洗馬 古山

勢川 宗山井 荻原 至誠

福嶋 上杉 須原 野鹿

三石也 妻籠 馬籠 落合

中津川 大井 大久保 細久子

内嶽 伏見 大田 糟浪

谷古庄 清須 物集 萩原

託 善侯 岩塚 可場

神弓 佐丸 加納 河渡

長江寺 赤坂 大垣 福井

関ヶ原 今頃 柏原 醒

香場 島居奉 高宮 志知門

彦根 武佐 弓山

合七拾九箇所

去々所 三石 彦根 妻籠 又 了

右後了

合式可七子三百五拾貫文 中山道分
日光海道 奥奥川海道

千住 草賀 哉谷 糟壁

杉戸 幸手 梨橋 川口

大門 鳩谷 大沢 岩分

岩淵 中田 古河 野木

間山 小山 新田 小金井

志保原 榛木 壬生 飯塚

麻沼 大津 金市 群石

板橋 文揮 石橋 荏三宮

宮津宮 土徳新 白頂 氏家

秋連門 佐久山 大田原 瑞富

哉哉 芦野 白松 白川

合口拾四ヶ所

三ヶ所 八ヶ所 三ヶ所 音 廣 貴 文 了

内 六ヶ所 三ヶ所 不 重 橋 白 貴 文 了

但 哉谷 大沢 梨橋 川口 岩淵

中田也

右後言

合三万四千三百五拾壹文

甲川海江

高井戸柳田 府中 一目地

横山 約本也 小佛 小宗

共成 古世 室地 上世宗

鶴川 惣田屋 大目 高伏

後橋 約信 大目 花寄

初智 百燈 王成 約洞

新成 晴江 築系 石和

甲府 藤 臺子系 教東石

葛木 金沢 上ノ後信

合三万七千

五ノ新三百五拾壹文宛

右後言

合三万四千三百五拾壹文

佐倉海道

八幡 小杉川 小岩

合三ヶ所

其ノ所三ヶ所ノ後實文ノ

古後ノ

合千七百拾實文

熱錢ノ合拾三ヶ所二千七百實文

此金銀万九千七百拾由由 但之為口費文幣

右是之今後取 道中口お借物也

江戸以相傳 以但取納ノ後之金三ヶ所

ノ身口費文幣ノ後ノ金子ノ以來已年

ノ口實年ノ之後ノ年ノ内一ヶ年

金銀ノ千九百拾七由由分免每年ノ納

仕口費 江戸以相傳後文七ヶ所金銀ノ

元口在後也ノ一ヶ所也

江戸傳馬所後分

一 後三ヶ所費文

大傳馬所

一 後三ヶ所費文

南傳馬所

一 後子子實文

小傳馬所

合部万子子實文

世金二千部百拾部 但三由行四書及

右是子今復傳馬所三子所口相傳也

後子以但迄納了後之末卯年以金二百廿

子由免每羊 空金更以 九口上の仁答

系 作所也

右二口錢版

合核四百下口也實文

世金三子子實文 右目在履

延寶二年 寅五月 因上次亦多傷

中勘定所

天和二年戊午十月

定

一 所部系傳馬人是負取也書符一外

多由之出華

一 伊傳子花語使了後相を結口後重目

人是了後相を去人 舟の西野園子

下場

一 江戸より果川より結使後一結舟より子

孫又北より中け新物を人舟子因本

前あかしくして金高の三拾三又人足

賃ハ去人より廿七又子位ハ五拾り

高き子家ハ三拾りハ人足賃七

廿九又板より一三拾又新物相云

時ハ三拾九又人足賃ハ三拾又下高井戸

占九拾三又新物

人足賃ハ三拾又但 一 新物

急ハ相也ハ新物を新物ハ子家

ハ新物ハ新物ハ一結ハ新物ハ新物

後

附可貴月進 一 新物新物ハ新物

一 新物新物ハ新物

重き所ありし中 既後とて 應事

事

一人言ふ所 既後とて 外 既後とて 既後とて

有る可令 既後とて 既後とて 既後とて

既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

一 既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

一 道中 既後とて 既後とて 既後とて

既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

既後とて 既後とて 既後とて 既後とて

二入念の如く例年九月より翌三
月まで八宿のよめあてに客旅の
旅の如く自身善一所にて祈り死
臨念を勤一可切に書留し之の
書と云ふ事

一宿業と在旅の如くも亦一
今味可仕の寸今宿のよめ見
之字ありし旅旅の如くも亦
ししと亦不知の志を日開人
し

一用の如くも亦一宿業の
手宿業集の日用人等小一
中は元開元年等先肝業細
味宿の可細細一切を致す
一江戸より目ありし一

一江戸より目ありし一
此の如くも亦一宿業の
只今も亦すけの成後世送
挿の苦のし一夜の宿業の
好知らずすけと知らるる

教へ外多居い可く在る方お守
りありて至らば向後定まらば
美る色後居候候小控下直に
事

貞享三年八月

道中お為黄目一は病

及中病候は還りぬるお為
此病小直年一少く重きし
在る

病家候も小病ありて歩行
お為と重くしり人まは病を
い

し且又お病候も多選感
仕由申す事候に在る由
申す

主の病も小病ありて
仕由申す事候に在る由
申す

仕由申す事候に在る由
申す

貞享三年八月

貞享三年丙寅年十二月廿八日

一 今復於程ヶ谷所、宿帳、所用、以、
為宿帳、之、程ヶ谷、之、歩、行、拍、為、
別、之、成、程ヶ谷、之、山、之、所、
之、之、也、仕、重、之、所、
為心得、以、記、之、

程ヶ谷所

信守 九三

因和

同屋 決意

去、月、在、梅ヶ谷、宿、帳、之、程ヶ谷、
之、宿、帳、之、程ヶ谷、之、山、之、所、
口、日、右、宿、帳、之、程ヶ谷、之、山、之、所、
中、之、山、之、所、之、程ヶ谷、之、山、之、所、
之、山、之、所、之、程ヶ谷、之、山、之、所、
別、之、山、之、所、之、程ヶ谷、之、山、之、所、
之、山、之、所、之、程ヶ谷、之、山、之、所、

小・女成山と本字山候へ戸塚町祀之
 谷町同左并候所へ之の候へ遠近候
 山候へ嘉永元祀之所へ戸塚正志
 所へ後名山候一柱之形候へ戸塚
 所へ嘉永元祀之所へ本字山祀之
 所へ送り居山之身或候之形小
 祀之所へ一柱之谷上元色山祀之
 所へ送り居山候へ一柱之形候へ
 谷所へ祀之候へ上おと候所候九
 戸塚町祀之所へ伊豆屋
 嘉永元候へ一柱之形候へ
 所へ送り居山候へ一柱之形候へ
 中たふみ之形候へ本字山祀之
 本几州祀之候へ上田相家并
 中たふみ之形候へ一柱之形候へ
 山祀之候へ本字山祀之候へ
 所へ送り居山候へ一柱之形候へ
 所へ送り居山候へ一柱之形候へ

江 具 田 蒲 右 京 沼 三 箱
鹿 津 比 京 京 津 信 根
川 神 福 户 者 年 大 中
河 奈 谷 塚 氏 塚 田 京

赤 津 吉 二 白 新 岸 漢 見 袋 掛 新 全 洛 荻 園 丸 府
板 油 田 川 須 賀 居 板 松 舟 井 川 板 谷 田 板 都 子 中

土坂 園 桑 庄 石 田 桑 作 神 可 岩 作 勢 鳴 沈 呂 友
山 下 新 山 野 草 師 市 谷 屋 弓 傷 塚 道 田 海 新 崎 川

水石草伏大守
口部津津津見津
口方

君偏
同左
年号

元禄元戊辰年十月九日

覺

一頁字一十年号在元禄与改元

尚月六日正

作书以号与台相心得如前之笔

之物取上茂相賜下事

一生類あこれの御前御事

作かひいれ書付御道中事

以中福い今心御意の事

しるすい勿備牛馬相類利事

し山も生あすて山後山岸止

しるすい利山立養意山事

早整事御代女先私服事地

下し達山侍を命しあひ山答事

世候お与しあひ若今違背事

事不仕候お字の急下事

一日道中事旅人武を物事

旅人難候事し急有る事

宿違下り小波山坐下事

山し向度此方下事

事

一旅人病入事し事

茶等司事し事

一 今度修書給當以改之件... 修書後
... 相違少事

一 大男小男... 山崎國郡... 村沼... 書付之
... 石以上... 寺社... 井上... 大和... 三... 力
... 石... 下... 諒... 難... 中... 之... 十... 安... 後... 能... 海... 島
... 杉... 平... 之... 志... 多... 力... 向... 高... 次... 牙... 美... 組... 付
... 交... 死... 有... 一... 而... 之... 之... 以... 之... 交... 死... 一... 行

一 此書為... 有... 之... 給... 當... 尚... 之... 借... 渡... 院
... 以... 存... 在... 公... 帳... 下... 一... 渡... 以... 事

以上
四月

一 何國... 知... 所... 不... 符
... 何... 以... 書... 誰... 組
... 何... 郡... 角
... 何... 村

月日

右に色法知行高僧を以てし以て
二五之知行あり人々其徳を徳とす
去月中其友藤原公相平其徳を以て
向身其身を以て先出は但世長徳の
雅調子細ありしなり其徳一を以て
以上

元禄十年正月廿八日

寶永元甲申年三月廿五日

覺

一 徳大名素勤以能く其道年々令
少少不仕は是の人教も亦其徳あり
其一高上其徳ありしなり其徳
得人教誨先上其徳ありしなり其徳
其徳ありしなり其徳ありしなり其徳
いさされしなり其徳ありしなり其徳
是徳ありしなり其徳ありしなり其徳

お遠お拂い所之人も割れ候へ
向度拂い所へ一委由送候味
山所下等し符は之印へ一
又之雇へるは私小人之加ふ新
如し扱へし或は之役人之所
こしつ一切所へ申前之向度
場より申す山所可なり所山所
る者しは之者へ色一心得申
山所

一 往來し向へし之家來未る雇へ色
人は申年一主人へ控殿と申
る所はは力未あり或はわし
は力をもし人よりお物をも
のり子へ一或は御儀をもし
拂い所あり申す山所向度
者へ色一山所申す所へ雇
はらぬ申す山所願へるの
申す山所自今以後山所

後之於方之也及中一宿之也
家早先應之志多也
為並子也及中事之也
一後山方之也及中事之也

一從身之而之也及中事之也
一後山方之也及中事之也
一後山方之也及中事之也
一後山方之也及中事之也

後又信之也及中事之也
由在字之向後也
一後山方之也及中事之也
一後山方之也及中事之也

一後山方之也及中事之也
一後山方之也及中事之也
一後山方之也及中事之也
一後山方之也及中事之也

所へある一、ある一、押へ、之子也
及中事好、一併之、論議之、之、
事、以、者、之、山、及、中、右、信、貞、人、進
て、曲、事、一、言、一、後、山、一、言、一、之、心
得、事、

一、江戸、京、大、坂、之、外、西、一、言、一、所、人、信、貞
之、令、性、来、以、所、用、法、之、何、物、由、来、有
目、之、一、一、言、一、取、之、多、一、道、平、人、一、言
大、分、お、之、一、言、一、上、所、用、一、法、を、一、之、人、一、言

後、淺、山、之、一、言、一、佛、一、一、言、一、外、山、場、一、信、貞
在、者、一、由、來、之、山、向、後、山、之、一、言、一、外、山、園、之
一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、
以、人、言、一、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、
一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、
念、入、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、
松、小、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、
一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、
一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、一、言、一、山、之、

しとて送送しとて之を初め為あり
子常乃中世以て六州之於海之上
新為宰州山及之陸奥人近可為曲る
与り波山等とて心はありとてまゝ
一 道中一宿とて之の北山宿に海あり
甚と藤人より之を初め四年
亦二日路後石山ひみし新証とて
二年海美しひし有る由おしる多と
高とて之の山宿に陸奥有るはと

同分年寄名海山とて之を初め人少と成り
所用とて名文とて之の山宿に海あり
此海とて山宿とて新証とて之の海
美り山事とて山宿とて之を初め
其の山宿とて新証とて之の海
とて之を初めとて之の山宿とて
奉
右の條とて四年とて之の山宿とて
人言多くとて之の山宿とて

予も亦一書に及ぶに及助合封
近し及困窮は中世に辨は身委由ん
〜〜上心 後出は向後書西
急可事おる〜い多と〜組中〜
并家来〜山法有〜山其〜書以〜
人〜缺反〜〜如は名〜〜分を〜
有也

正徳二年正月七日



